

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達等の状況に応じた、最も適切な教育の創造」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
(1) 卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
(2) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
(3) 安心して安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
(4) 仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標

- 1 (キャリア教育) 卒業後を見すえ、**自立・自己実現、社会参加**に向けた、小学部・中学部・高等部の連携による**一貫性のある教育活動**を進める。
(1) 小学部の段階から、児童生徒が夢や志をもって自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。
(2) 学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築とイノベーションの観点をふまえた教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。
(3) 関係機関と連携し、生徒一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。
- 2 (教育力向上) 教員としての**資質と教育力の向上**とこれからの時代の変化に対応できる**学校組織力の向上**
(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成。
(2) 教職員一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。
(3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくりにより、教職員の組織力の向上を図る。
(4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用により、児童・生徒の学びの深化を図る。
- 3 (安心安全) 児童生徒一人ひとりの**人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される**安心・安全に過ごせる学校づくり
(1) 学校教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、教職員の見守る力と実行力で、安全で安心な教育環境を確保する。
(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上。
(3) 体罰防止と個人情報の適正な管理運用を行う体制の確立。
(4) 働き方改革のもと効率の良い業務推進で、教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成する。
- 4 (地域連携) 支援学校としての**センター的機能の充実**と、児童生徒が地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め豊かに生きるための**地域連携の推進**
(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の向上を図る。
(2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。
(3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率 令和5年度 保護者 69.3% (小学部 68%、中学部 78%、高等部 61%) 教職員 100% 令和4年度 保護者 72.2% (小学部 75%、中学部 70%、高等部 71%) 教職員 100% 教職員の回収率は、今年度も 100%を達成した。保護者の回収率は昨年度 72.2%から 4.6 ポイント下がった。 特に高等部が 10 ポイント下がっているため、次年度はより周知を徹底し、わかりやすい標記を心がけるなど、次年度以降も保護者が提出しやすいような工夫を検討し、回収率が上がるようにしたい。</p> <p>○保護者 124 名回答 (回収率 69.3%) 33 項目の質問に対して 18 項目で肯定率 80%を超えていた。(昨年度 20 項目)。 ・「学習の内容・学校生活の様子を懇談や学級(学年・部)通信、連絡帳などによって知ることができる」(肯定率 96.7%)《98.5% R4》 ・「学校は、子どもの心身の健康や障がいの状況等について保護者の悩みや相談に適切に応じてくれる。」(同 94.3%)《91.5% R4》 ・「運動会や遠足・宿泊学習・修学旅行などの学校行事は、参加しやすいよう工夫されている。」(同 94.3%)《95.4% R4》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。 このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高く、今年度の行事への取り組みに対する肯定的な意見をいただいたことは大変嬉しいことである。 また、以下の 2 項目に関しては 10 ポイント以上肯定的意見が上昇した。 ・「学校は子どもに 1 人 1 台端末(タブレット型 PC)等を効果的に活用している。」(肯定率 63.1%)《50.4% R4》 ・「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。」(同 75.4%)《60.8% R4》</p> <p>○教職員 96 名回答 (回収率 100%) 47 項目の質問に対して 29 項目で肯定率 80%を超えていた。(昨年度 20 項目)。 ・「指導要録・健康診断表・保護者案内文書等の收受、発送、保管に対する管理がなされている。」(肯定率 95.8%)《90.4% R4》 ・「個人情報保護の観点から、児童・生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。」(同 93.7%)《90.4% R4》 ・「児童・生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。」(同 93.7%)《89.4% R4》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。</p>	<p>【第一回学校運営協議会】7月14日図書室にて開催 ○協議テーマ ・学校運営協議会実施要項 ・今年度の学校経営計画について ・各学部、分掌より活動計画重点について ・今年度の採択教科書について ○学校運営協議会からの意見 ・コロナ5類移行後、陽性者の把握が難しくなっているため日本学校保健会の学校等欠席者感染症情報システムの積極的利用を勧めます。 ・防災教育を実習形式で進めていただくようお願いいたします。 ・教育計画、分掌計画、評価指標がリンクしてつながっている 目標を意識して業務されているのがよくわかる。各部の働き方改革 情報機器の活用も考えられている。 子どもたちに加えて、先生方も校務の方で使ってほしい。守口市立の学校では、参観シートをオンラインにして同時に共有しているところもある。工夫して働き方改革につなげてもらえたらと思う。 ・ハローワークでは高等部3年生の生徒が多いが、小学部の子どもの写真を見て、こうして小学部、中学部を経ているのだと分かった。 支援学校のDVDは支援学校のアピールを保護者に知ってもらいたいきっかけになると思った。今後、地域に向けての理解につながることも考えて作ってもらえたらと思う。 小学部からの積み重ねが大事になる。働くことが全てではないが日常生活のことから進めてもらえればつながると思う。</p> <p>【第二回学校運営協議会】11月17日図書室にて開催 ○協議テーマ ・今年度の学校経営計画の進捗状況について ・各学部等からの教育活動報告 ・学校教育自己診断について ○学校運営協議会からの意見 ・秋の大きな行事を控えている多忙な時期に、中間報告を聞けて感謝してい</p>

府立守口支援学校

<p>また、以下の 10 ポイント以上肯定的意見が上昇した 10 項目のうち、主な項目は以下の通りとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。」(同 75.8%)《65.4% R4》 ・「施設・整備は必要に応じて適切に整備しよう努力している。」(同 76.8%)《49.0% R4》 ・「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。」(同 82.1%)《71.2% R4》 ・「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。」(同 92.6%)《79.8% R4》 ・「児童・生徒の将来(ライフステージ)を見通した指導、支援を心掛けている。」(同 90.5%)《78.8% R4》 ・「近隣の小・中・高等学校との交流の機会を積極的に設け教育活動全般にいかしている。」(同 85.3%)《63.5% R4》 <p>○学校経営計画に目標指標が設定されているが、その目標指数を達成できなかった項目(保護者)は以下の3項目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている。[80%以上]」(肯定率 74.6%)《81.5% R4》 ・「学校は子どもに 1 人 1 台端末(タブレット型 PC)等を効果的に活用している。[65%以上]」(肯定率 63.1%)《50.4% R4》 ・「学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している。[70%以上]」(肯定率 63.9%)《68.5% R4》 <p>以上の結果より、教職員の人権意識については、個人情報ミニ研修やアクションプランの周知等により教職員間での共有や周知に取り組んできた成果と考える。またポイントが増加した項目の要因としては、行政(事務室)と連携し施設・設備の保守・改修を連携して行い、環境整備を行ったことや、児童生徒の実態把握についての研修を進めてきたこと。また、地域との学校間の交流や首席を中心として教職員間のコミュニケーション活性化の取り組みの成果と考える。その他、「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。(感じている)」は 77.9%《85.4%R4↓7.5P》と下がっており、高い肯定率は維持しているが今後も教職員の授業力向上と保護者のニーズにそった教育活動を検討していきたい。</p> <p>●この結果を受け、目標値に達しなかったところを中心に次年度は再度検討を重ね、重点的に取り組んでいくとともに、保護者への周知についても改善して必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の本校の重点取り組みについて ①学部間の連携によるキャリア教育の推進をめざした新教育課程の実施と検証 ②指導力、授業力の向上をめざし、児童生徒にとって「魅力的かつ分かりやすい授業」の確立 ③ICTの効果的な活用、「個別最適な学びの実現に向けた“1人1台端末”の活用の継続」 ④働き方改革「充実した教育の提供のため心身ともに健康な教員と学校組織づくりをめざして」 ⑤地域の学校等との交流及び共同学習の計画的・組織的な継続実施 	<p>る。今回、生徒が資料を整えてくれたということで、こちらも併せて感謝している。また、今回も子どもたちの写真での行事等説明を楽しみにしている。先生方の指導支援が円滑にいくことが子どもたちの成長につながると思っているのでこれからも進めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全校教科会議」の内容について具体的に教えてほしい。 ・「守口門真支援教育 Lab」の取り組み成果について具体的に教えてほしい。 ・「欠席連絡 ICT 化」について具体的に教えてほしい。 <p>【第三回学校運営協議会】2月20日図書室にて開催 協議テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学校教育自己診断集計結果報告 ・令和5年度学校経営計画の総括と今後の課題について ・令和6年度学校経営計画について ・各学部等からの教育活動報告 <p>○学校運営協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会を重ねるたびに動画や写真で伝えていっている。その中で質問や意見ができることが嬉しい。専門性の高さと子どもへの愛情を長きに渡って実感している。今回も活動状況をしっかり聞かせてもらえたらと思う。 ・危機管理について アレルギー対応できているか ・当校が福祉避難所になる可能性はどれくらいか ・教員のメンタルヘルスについて昨年同様研修の場で話し合う機会を是非持って頂きたい。 ・先生方の本分は授業で生徒と向い合うことです。細かな仕事は是非サポートスタッフに委託する等を皆で実践しましょう。 ・人権に配慮して対応してもらっていて安心。愛情がベースであっても結果的に本人、保護者の不安を感じさせる形になる。セルフチェックをしておくことも大事。 <p>令和6年度の学校経営計画については承認された。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	<p>(1) 児童生徒が夢や志をもって自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。</p> <p>(2) 学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築</p> <p>(3) 関係機関との連携による生徒一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。</p>	<p>(1) ア 「子どもにつけたい力」について、各教科や他の教育活動との結びつきについて検討を実施</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用</p> <p>(2) ア 全校教育課程の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学部を超えた情報交換 ・3学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施 ・全学部において、新時間割の運用とその改善点の検討。 <p>(3) ア・中学部、高等部生徒の進路選択における教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への進路に関する情報提供の充実 <p>イ・定着支援、アフターフォローに向けた取り</p>	<p>(1) ア 検討し「教育課程シラバス」作成時に内容やねらいの追記等ができたか。</p> <p>イ 新たな「年間スケジュール」で運用することができたか。</p> <p>(2) ア・全校教科会議の実施(8回/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校教科会議で「教育課程シラバス」作成と教材の情報共有ができたか。 ・R4 作成の行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事に向けた計画や実施が進んだか。 ・新時間割の運用及び改善点の意見集約ができたか。 <p>教 「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われ、うまく機能している」65%以上維持[69.2%]</p> <p>(3) ア・高等部 進路指導部と連携しながら各学年が主体性をもって生徒への進路学習を実施できたか。</p> <p>中学部 職場体験学習についての検討ができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな進路学習を実施できたか ・PTA 対象の説明会や企業との連携による生徒実習先の見学会実施できたか(2企業以上) <p>イ・卒業生対象の相談会(R3、4年度卒業生)や旧担任等による進路先訪問</p>	<p>(1) ア 各学部で「子どもにつけたい力」についての検討を行い、10月には「子どもにつけたい力」と学習内容の結びつきについて検討した。さらに、その内容をもとにシラバスの修正を行った。(○)</p> <p>イ 予定通り運用することができた。(○)</p> <p>(2) ア・計画通り8回実施できた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。各教科会で情報共有等を行った。一部教科会で「教育課程シラバス」の作成に取り組んだ。(○) ・改修工事や児童生徒の障がい特性への配慮から行き先を変更した特例もあるが概ねシラバス通りに実施できた。(○) ・年間2回のアンケートを実施。(○) ・公開授業見学日や他学部の教員による出前授業等の取り組みより、学部を越えた連携ができた。73.7%4.5%↑(○) <p>(3) ア・【高】進路先への情報提供、実習関係業務等において例年に比べ担任が関わる機会を増やすことができ進路専任と担任の連携を密にできた。(○)</p> <p>【中】現行の内容の整理を行い、時期や受け入れ先などの検討を行っている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部において、自ら計画して実行する「余暇」活動を学ぶ取り組みや職場実習協力企業と連携した進路学習を新たに行った。(○) ・7月に実施。12月に企業の講演会を実施。2社に訪問(見学会を実施)。(○) <p>イ・夏季休業中に旧担任が進路先訪問を実施。12月に進</p>

府立守口支援学校

		<p>組みの充実 ・年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。</p>	<p>(R4卒業生全員)が実施できたか。 ・卒業生にもホームページを活用した情報発信が出来たか ⑩「学校は子どもの将来の進路や職業について発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上維持[81.5%]</p>	<p>路相談会を実施(10家庭17名参加)。(○) ・HPに新しく「卒業生の皆様へ」というページを追加し、同窓会などの情報を発信した。(○) ・74.6% ↓5.4%(△) 教職員の進路指導に関わる2項目の回答は肯定率が90%を超えているが保護者の肯定率は目標値に届かなかった。しかし、PTA 進路講演会や施設見学会への保護者参加人数は増加している。個別の進路相談件数も増えているため、保護者の進路に関わる意識が高まったことによるものと考えられる。今後は、進路に関わる情報の丁寧な発信や周知方法も工夫を進めていきたい。</p>
<p>2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上</p>	<p>(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成を行う。</p> <p>(2) 「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす</p> <p>(3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくり</p> <p>(4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用した取り組みの推進。</p>	<p>(1) ア 授業見学や公開授業の充実 イ 校外の研修等の情報共有 ウ 校内研修の充実を図る(教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち支援 Lab」実施)</p> <p>(2) ア 専門性の向上 ・「児童生徒の実態把握」の手段についての学びを深める ・「高等部段階への進路選択の多様性」について理解を深める。 イ 人権意識の向上</p> <p>(3) ア 職場におけるハラスメントの防止 イ 教員間のコミュニケーション機会増</p> <p>(4) ア ICT の効果的な活用 テーマ「個別最適な学びの実現に向けた 1人1台の活用」 イ ICT を活用した教材づくり</p>	<p>(1) ⑩「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善を行っている」85%以上[79.8%] ア 地域等を対象とした授業の公開(各回/年)学部を超えた授業見学(6回/年)、他学部への出前授業検討 イ 府内外の研修への積極的な参加と伝達講習の実施。 ⑩「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」65%以上維持[68.3%] ウ「もりぐち支援 Lab」の継続実施 ⑩「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[76.0%]</p> <p>(2) ア・専門性に特化した人材を活用した研修等実施(年2回以上) ・様々な発達検査に関する研修(2回以上) ・実態把握のためのチェックシートの検討ができたか ・「高等部段階への進路選択の多様性」をテーマとした全校研修実施(1回/年) イ 「LGBTQ」「ヤングケアラー」についての学習会を実施できたか 「安全で安心な学校づくり推進事業(府立学校)」に応募し校内研修などを実施する。</p> <p>(3) ア ⑩教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている 80%[78.8%] イ ⑩「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている」65%以上維持[65.4%] ⑩「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」70%以上[79.80%]</p> <p>(4) ア「個別最適な学び」の実現に向けた研修の実施(1回/年) ⑩「学校は子どもに1人1台端末(タブレットPC)等を効果的に活用している。」65%以上[50.4%] イ・教材・事例が公開できたか ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理を行うことができたか。</p>	<p>(1) ・92.6% ↑7.6%(○) 昨年度の反省により、ノー会議デーの設定を多くし、教員の業務時間を確保した結果、教材準備に充てる時間も増えたと思われる。 ア 各授業公開(3回)、出前授業(3回)計画通り実施。公開授業へは、地域からのべ約30名参加。(○) イ 85.3% ↑17.0%(◎) 研修等への参加希望も多く、積極的に参加できている。府内・府外の伝達講習をコンパクトにまとめて伝える機会を増やすことができた。 ウ 76.8% ↑0.8%(○) Labは2回実施。アンケートでも好評を得ている。校内研修についての項目では、否定率も増えているため、今後は内容について丁寧に進めていきたい。</p> <p>(2) ア・「筋ジス」、「OT」の専門性を養う研修を実施した。(○) ・「守口支援 Lab」で様々な発達検査の研修を2回行った。(○) ・検討し、チェックシートの作成を試行した。その結果、実態把握の資料として今後、校内で活用を広く予定である。(○) ・進路指導主事による研修を実施。地域の学校からも7名の参加があった。(○) イ・「ヤングケアラー」についてはR4年度の学びをより深めるため、校外の研修に参加し、内容を伝達講習している。LGBTQの当事者を講師に招き研修を実施。(○) ・「安全で安心な学校づくり推進事業(府立学校)」の校内報告会を3学期末に実施。(○)</p> <p>(3) ア・88.4% ↑8.4%(○) 各ハラスメント対応で窓口になる教員を決め、周知をし、相談しやすい工夫を行っている。 イ・75.8% ↑10.8%(◎) 「首席カフェ」と称して仕事面の内容のみではなく、趣味や家庭のこと等多岐にわたる話題で教職員と首席が話す機会を設けた。様々な校内研修やミニ学習会で教員間のコミュニケーション機会の増加に努め、少しずつだが風通しの良い職場環境構築につながっていると思われる。 ・76.8% ↑6.8%(○) 前述の通り、メンタルヘルスクエア研修等やその他の校内研修で教職員間でのコミュニケーションを取る内容を取り入れたことによると思われる。</p> <p>(4) ア・63.1% ↓1.9%(△) 夏季休業中に計画通り実施。教育センターの指導主事によるパッケージ研修にて講義2回。各学部1名ずつの研究授業に前後の授業改善指導の機会を設け、実施した。目標値は届かなかったが、前年度比12.7P↑で、アンケートにはICTを活用した授業には肯定的な意見が多数あり、今後も一人一台端末の効果的な活用と保護者への理解推進への取り組みを継続したい。 イ・校内で各学部の報告会を実施し、その内容をHPにて公開。(○) ・各学部で教材データの整理ができた。更なるデータの蓄積を進めていく。(○)</p>
<p>3 生徒・保護者から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を確保する</p>	<p>(1) ア 校内の防災、緊急時への備えの充実</p>	<p>(1) ア・「大規模災害マニュアル」の見直し 「通学バス緊急対応マニュアル」の活用と見直し ・全教職員への周知ができたか。</p>	<p>(1) ア・特に「大規模災害マニュアル」では、避難訓練の内容、指示系統、災害時緊急連絡カードの活用等のポイントについて、「通学バス緊急対応マニュアル」では、バスコースの確認や欠席アプリ導入に伴って見直しできた。(○) ・教員連絡会等で周知することができた。(○)</p>

府立守口支援学校

	<p>(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み</p> <p>(3) 体罰防止と個人情報管理の適切な運用を行う体制の確立。</p> <p>(4) 働き方改革のもと効率の良い業務推進で、教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成。</p>	<p>イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応</p> <p>(2)</p> <p>ア 防犯防災学習の充実に向けた検証と改善</p> <p>イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進</p> <p>(3)</p> <p>ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進</p> <p>イ 個人情報の取り扱いに対する意識向上</p> <p>(4)</p> <p>ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革(教員の時間外業務の軽減と保護者の負担軽減含む)</p>	<p>イ・安全点検や施設整備の実施に関する内容をブログ等で周知</p> <p>保「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70%以上[68.50%]</p> <p>教施設・設備について日常的に点検や管理が行われている75%以上[71.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> エピペン講習と食物アレルギーについての研修の実施 <p>(2)</p> <p>ア 防犯防災学習内容充実のための安全研修が実施できたか(3回以上)</p> <p>イ 各保護者と学校が協力して、児童生徒の避難場所、避難所を確認できたか。(緊急時連絡カードの活用)</p> <p>(3)</p> <p>ア・人権侵害事象ゼロ</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権研修2回/年 人権アクションプランの周知徹底 <p>イ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会開催(年度初めに実施)</p> <p>(4)</p> <p>ア・17時退勤日(週1回)の徹底実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの「総合健康リスク指数」110以下[112] <ul style="list-style-type: none"> 各分掌等で効率の良い業務の推進についての協議ができたか。 計画的な会議設定(曜日固定) <ul style="list-style-type: none"> 週1回のノー会議デイ(NMD)の設定 メール等を活用した「欠席・遅刻届システム」の導入。 	<p>イ・今年度は施設・設備の保守・改修の件数は迅速かつ多数実施し、修繕、整備箇所について文書配付並びに学校ブログにて掲載した。教職員の数値は大きく増加したが、保護者の数値は目標値に達しなかった。今後はメール配信等により周知できるよう検討を進める。</p> <p>保63.9%↓4.5%(△) 教82.1%↑10.9%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> いずれの研修もエピペントレーナー等を使用し、4月に研修、12月にも基礎、緊急時のシミュレーション研修を実施。 <p>(2)</p> <p>ア 防犯防災研修を年3回実施した。(○)</p> <p>イ 緊急時連絡カードを活用し確認できた。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・11月下旬に生徒間の事象が1件生じたが早期に解決することが出来ている。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に1回実施。後期に1回実施。(○) 月初めの朝の連絡会で周知のためのアナウンスを実施。呼名については徹底まで至らずであったので継続的に取り組む必要がある。(△) <p>イ・4月に実施。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア・火曜日を定時退勤日に設定した。当日朝の連絡会で周知し、放課後に促す放送を実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの結果は103。(○) ストレス値の高い教員対象に産業医面談を実施。夏季休業中にメンタルヘルス研修を実施。 各分掌で業務の見直しや効率化の検討を行い、年度末反省にて発表し、次年度へ反映する。(○) 一部曜日固定をするなど計画的な会議設定を行った。(○) R4:11回、R5:21回設定(○) できていない週もあったが可能な限り設定できた。 9月末に保護者に説明し、10月から試験運用、12月から本格運用している。保護者や今まで早朝から対応をしていた教員にも好評である(○)
<p>4 センターの機能の充実と地域連携の推進</p>	<p>(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実</p> <p>(2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。</p> <p>(3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 関係機関との連携強化</p> <p>(2)</p> <p>ア ホームページの充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 見やすいホームページに向けた検討 定期的なブログUPによる教育活動の紹介 <p>イ 保護者との連携</p> <p>ウ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成</p> <p>(3)</p> <p>ア・近隣校との交流再開と充実</p> <p>イ 地域でのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 清掃運動実施 	<p>(1)</p> <p>ア・就学に向けた市教委との連絡会実施(2回以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 守口門真支援教育Labの開催(1回/各学期) <p>(2)</p> <p>ア・定期的なカウンターチェックにより、閲覧者数の推移を確認し閲覧者増につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部通信や学年通信等へのブログQRコードの添付の徹底 <p>保「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」70%以上[60.8%]</p> <p>イ・1日参観、参観週間の改善による実施ができたか。</p> <p>ウ・学校紹介DVDの作成の準備と活用。(R5完成に向けてPT)</p> <ul style="list-style-type: none"> 創立30周年式典のPTを立ち上げ、会議を実施できたか。(R7年実施に向けてPT) <p>(3)</p> <p>ア・各学部主事や係より交流活動の報告を行い共有できたか。</p> <p>保「学校は子どもが他の学校の子と交流する機会を設けている」70%以上維持[72.3%]</p> <p>教「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」70%以上[63.5%]</p> <p>イ・児童生徒活動の検討と見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒会による校外でのあいさつ運動等の実施 清掃運動実施(前期・後期各1回) 	<p>(1)</p> <p>ア・合計6回実施し、十分な情報共有できた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期中に2回実施。地域の教員のべ35名が参加。(○) <p>(2)</p> <p>ア・4月から毎月チェックを行っている。増加傾向にあることがわかっている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 75.4% ↑14.6%(◎) QRコード添付の徹底を呼び掛けている。担当教員が添付していることを確認している。今後も周知方法等で工夫をして、丁寧に教育活動の紹介を行うなどホームページの充実に努めたい。 <p>イ・反省をいかし、日程の調整を行った。特に参観週間においては保護者からは、休みを調整しやすい、見たい授業が見れた、と大変好評である。継続実施に向けて検討したい(○)</p> <p>ウ・PTを立ち上げ、作成経験のある学校を訪問するなど、3月完成に向けて作成中である。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> PTを立ち上げ、会議を継続実施している。R6年度は委員会として進めていく予定である。(○) <p>(3)</p> <p>ア・居住地校交流や学校間交流がコロナ禍以前の形態で実施され、交流の様子を保護者に連絡帳等で伝えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月の職員会議にて各学部の実施件数、内容の概要等を報告したことで学部間の理解が深まった。また、コロナ禍以前の交流の形態に戻して、実施することができた。 <p>保75.4%↑3.1%(○) 教85.3%↑21.8%(◎)</p> <p>イ・児童生徒活動ではあいさつ運動の活動等についての検討と見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校門前、地域の公園で実施。(○) 高等部、保健美化委員を中心に清掃運動実施。(○) 高等部授業の一環として行った地域連携の活動に対して「令和5年度「こころの再生」府民運動@スクール表彰」を受賞することが出来た。